

《月々の手入れ》

【9月】

秋剪定(主幹枝ごとの剪定手順)

1. 5月下旬から6月中旬の比較的早く伸びたシュートの剪定
2. 7月上旬に伸びたシュートの剪定
3. 途中(サイド)シュートの剪定(春花後)
4. 比較的樹高の低いHTの剪定方法
5. 先端がほうき状になってしまった枝の剪定
6. 消毒
7. 灌水
8. 施肥

秋ばら剪定のシーズンです。秋のばらは春と違って、剪定から開花までは45日~65日ぐらいで開花します。剪定の、まだ暑い残暑厳しい時から秋の次第に気温の下がるステージでの、晩秋のばらの開花は、春ばらと違って、同じ品種でも、味わいの深い色合いと、キリット締まった、美しい、また、(気温が下がることから)ゆっくりと開花し、花持ちもよく、長い時間楽しむことができます。

秋ばらの剪定から開花までの日数は、品種ごとに違いますが、気象条件・立地条件のほか、剪定位置・方法によっても開花日数が異なってきます。基本的に下記のことを念頭に置きながら、剪定を行ってください。

開花が早くなる場合

- ① 主幹枝からの剪定位置は強剪定より弱剪定の方(花枝の下の段より上の段の方)が早く咲き、同一の花枝では下方より上方の方が早く咲きます。
- ② 剪定箇所は5枚葉は付けたままより取った時、光が芽に当たりやすくなり、早く芽が動き出します。
- ③ 古い枝より、新しいシュート枝の方が勢力強く早く咲きます。

開花が遅くなる場合

- ① 4段、5段と長く一本に伸びたシュート枝を1,2段目まで一気に低く剪定した場合、光合成をしていたたくさんの葉を失うことになり、ショックを受け芽が動かなくなります。
- ② 春ばらのように強剪定した株。

③ 病虫害などで葉を落として、全く葉がなくなってしまった株。

1.5 月下旬から6月中旬の比較的早く伸びたシュートの剪定

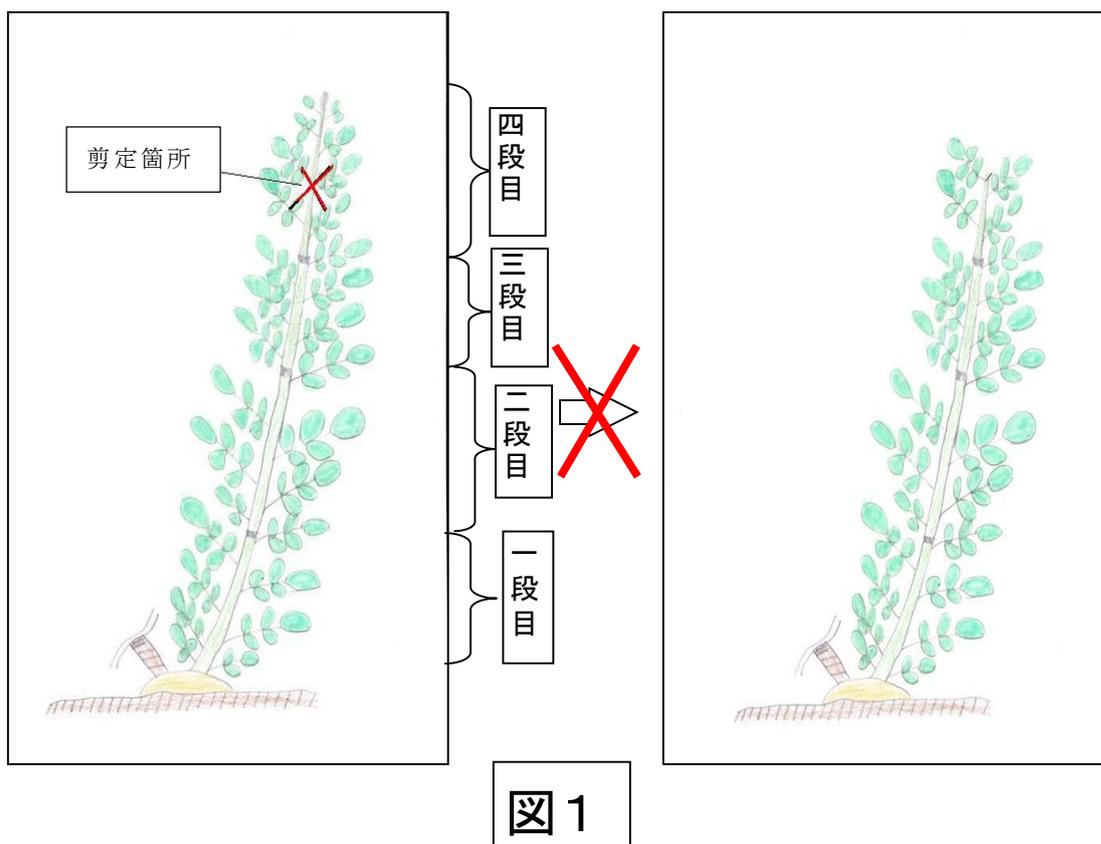
(1) 剪定例1 (最上段の4段目で剪定する=間違い剪定例)

図1のように伸びてきたシュートを順調にピンチ(ソフトピンチし、デイシューティングを繰り返す)していれば、秋剪定の頃には少なくとも4段目以上に伸びているはずですが、シュートのピンチを忘れたり、デイシューティングを怠ったりしていると、先端がほうき状に蕾や花が付いたシュートは1段目がその状態なら、HTでは失敗作となり、良花は望めません。

通常、今伸びている4段目の真ん中あたりで剪定したとします。

しかしこんな高い位置で剪定する人はいません。

- ①ここから伸びるステム、花は位置が高すぎます。(通常3段目までで2mは越している)以後、管理がしにくく不向きとなります。
- ②伸びるステムはかなり細く、ばらの品種の持つ樹高特性(樹高の最高到達点)により、これ以上伸びなくなり、短い・細いステム(花枝)で終わってしまいます。



※ソフトピンチ

シュートが伸びて先端の蕾が付く直前、枝がまだ若く柔らかい時に、指で曲げる程度でカットすること。

※ディ・シューティング

シュートの先端をピンチした後に伸びてくる脇目を、先端付近の5枚葉からよく伸びた良い芽だけを残して、その他の芽を全てかき取り、常に1本枝を意識して、育てること。枝分れをさせないために、枝を太く育て上げ、主幹枝とします。フロリバンダや、シュラブなども2段目ぐらいまではピンチし、一本仕立てで育てた方が後の剪定がしやすくなります。

(2) 剪定例 2 (4段目まで伸びた枝を一気に2段目で剪定する=間違い剪定例)

図2はよくある剪定例。これが、第一の秋の剪定間違いの一つです。

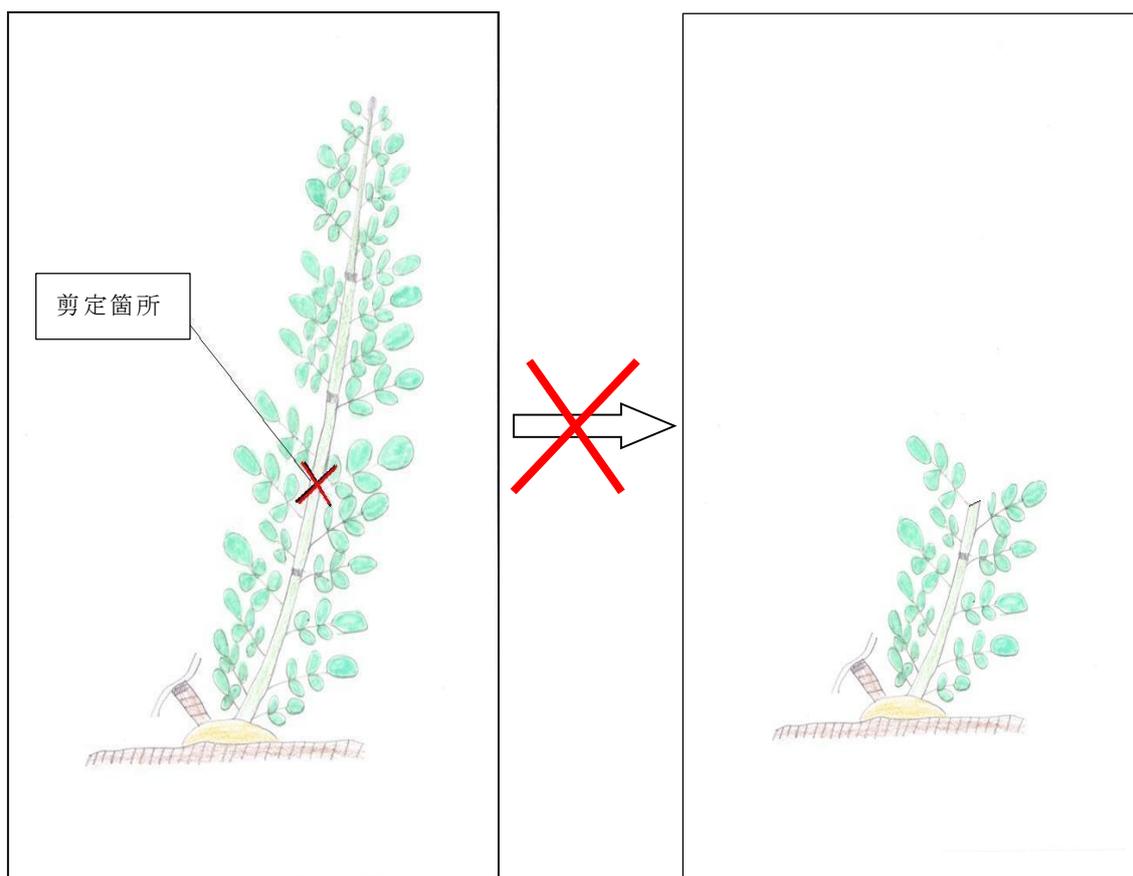


図 2

図2の剪定は、よくある秋剪定の例です。剪定位置は地表から7, 80センチの位置であり、今後伸びてきたステムの管理が最もし易い。

しかし、一度に大量の葉を失うことになり、ばらは大きなショックを受け、この後の芽出しが大幅に遅れ、正常な成長が出来ないため、花芽形成も不十分で、咲いたとき、シュート花のわりには並の花となります。

この4段まで伸びたシュートの場合、最も最良の剪定位置は、下記の図3、一段下、3段目の真ん中あたりが最良の位置です。これで後の管理が出来る場合はこの剪定位置でも良い。

ここから伸びるステムは太さも丁度良く、ばらにもショックを与えず最良です。しかし、4段まで伸びた3段目の真ん中あたりでは、これから延びるステム(花枝)はかなり高く、管理する支柱や脚立が必要となり、現実的ではありません。

(3) 剪定例3 (4段目まで伸びた枝の一段下、3段目で剪定=剪定位置は最良もやや失敗作)、仮剪定

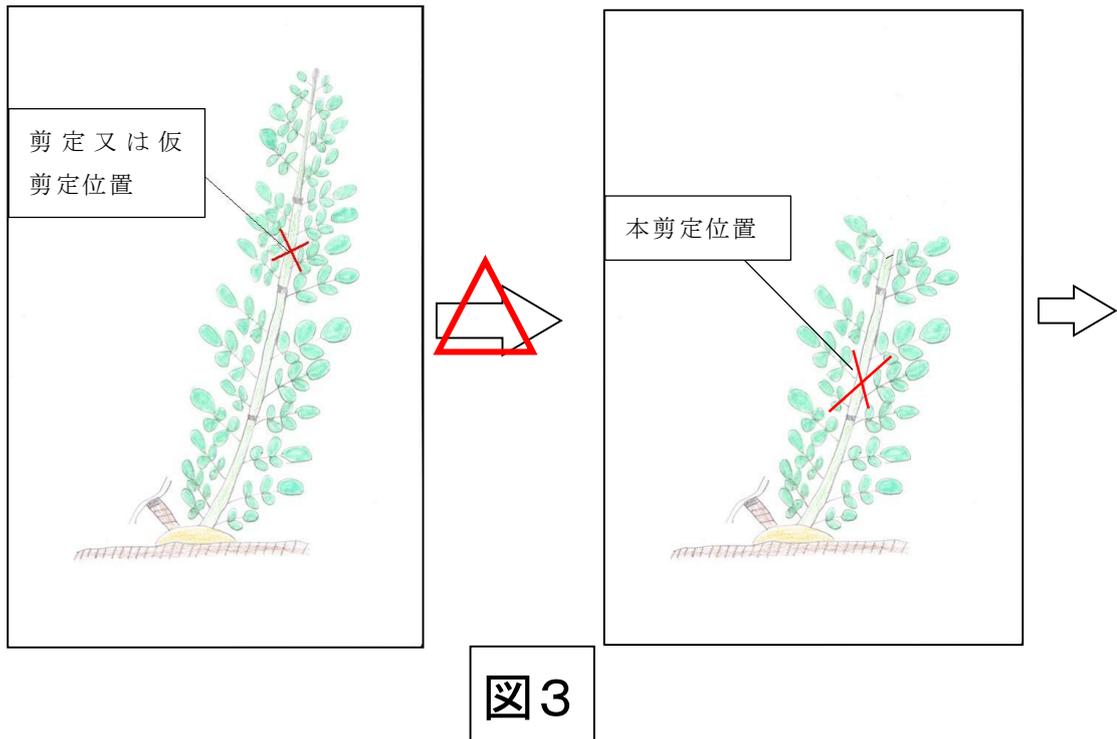
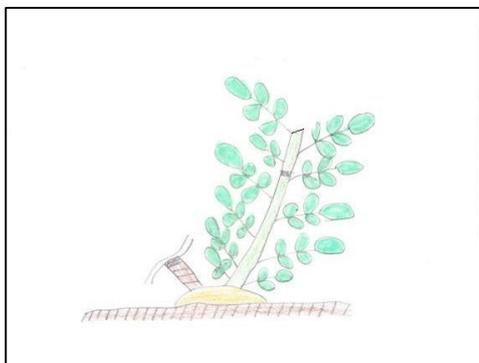


図3のように3段目の中ほどの本剪定は剪定位置としては最良で、この上なく最良花が得られる確率が高いが、一般的に高性のHTではこの後の花位置が高すぎて、露地栽培では風対策等に難があります。

仮剪定方式

仮剪定を本剪定の1週間～10日前に3段目で行い、本剪定で図3の2段目中ほどで行う方法は、従来からの剪定方法。



(4) 剪定例4、切り戻し剪定その1

(切り戻し後伸長した芽をソフトピンチ(1回目)さらにその箇所から伸長した2段目の芽のソフトピンチ(2回目)で本剪定を行う方法)
本剪定の約35～40日前に切り戻す方法

切り戻し後ソフトピンチを2回繰り返し、本剪定とする場合

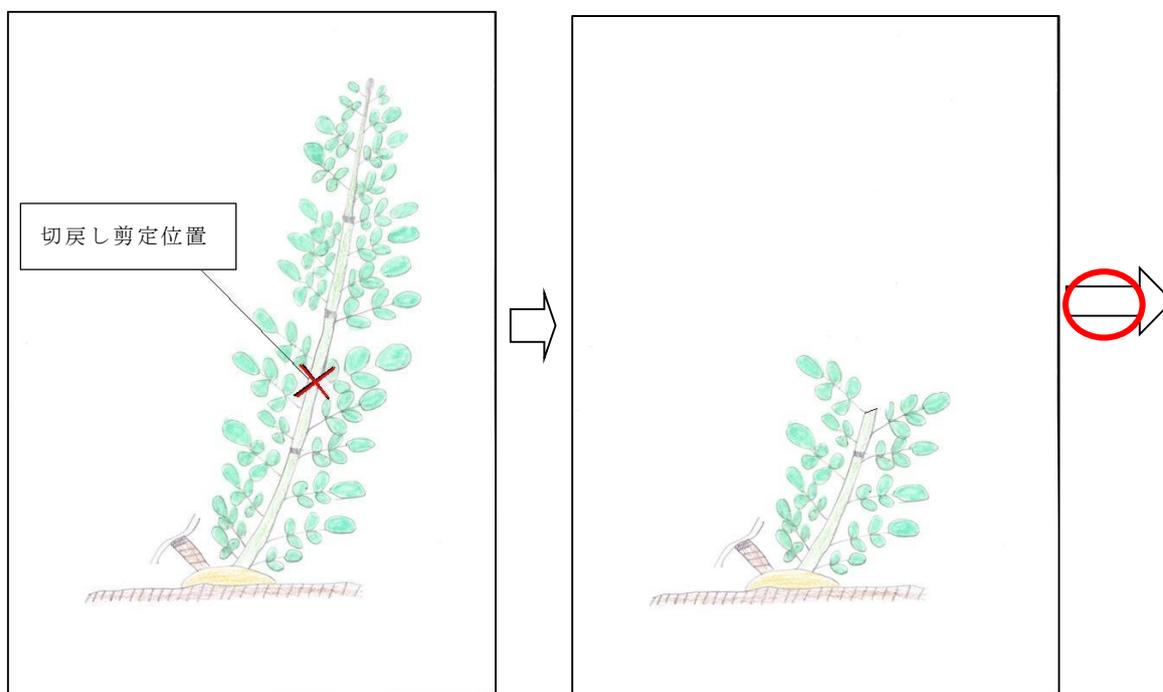


図4

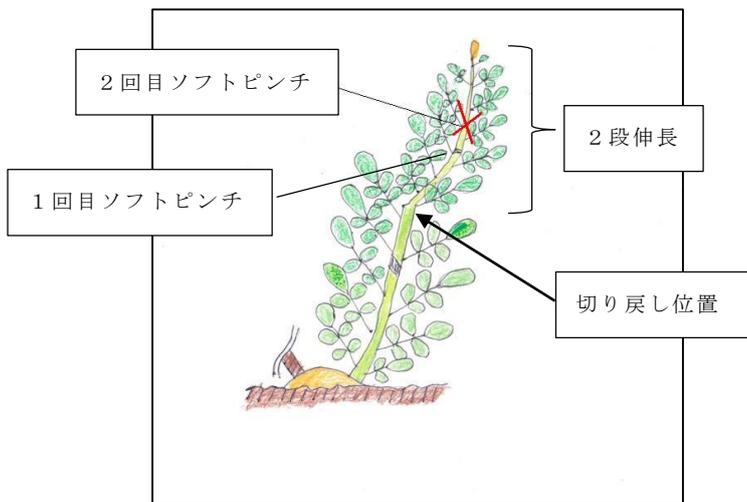


図 5

例：9月5日剪定日の場合

切り戻し日は6週間前、7月26日に図4の切り戻し剪定を行います。

切り戻し後、伸長した新芽を約3週間後の8月15日に1回目のソフトピンチをする。

さらに3週間後の9月5日に2回目のソフトピンチで本剪定とする。

長所

- 本剪定の、1カ月以上前であり、株に与えるショックはほとんどなく、良花が得られる。
- 葉を落してしまった株では有効で、新葉が光合成を行い、秋花の良否を補う。この場合、切り戻し日をさらに約3週間速めて3回ピンチで剪定を行うと、更に有効となります。

短所

- 切り戻しから新芽が伸びる様子は、株の主幹枝毎に一定ではなく、ばらつきがあり、2回のピンチは難しくマニア、上級者向けです。

(5) 剪定例5 切り戻し剪定2

(切り戻し後伸長した芽をソフトピンチ(1回目)で本剪定を行う方法)本剪定の約17~21日前に切り戻す方法

切り戻し後ソフトピンチ1回で本剪定する場合

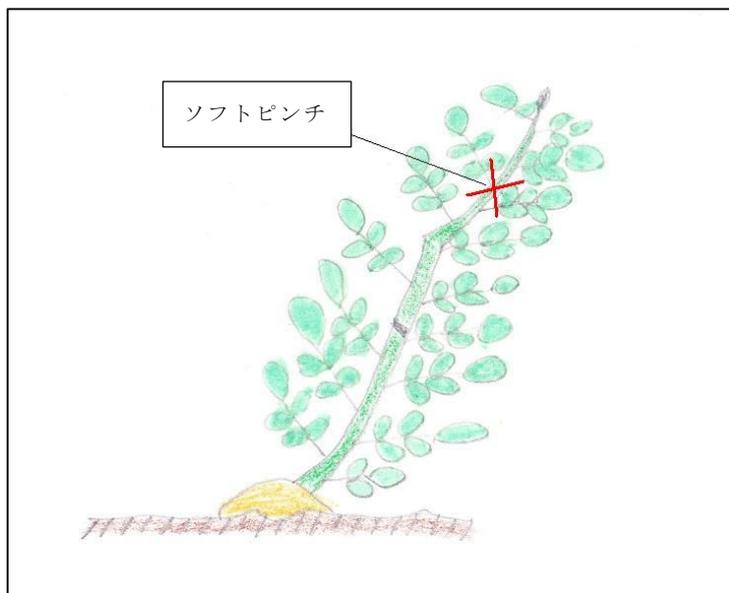


図6

例：9月5日本剪定の場合

切り戻し日は3週間前の8月15日[図4]のように切り戻し剪定を行います。

切り戻し後3週間目の9月5日にソフトピンチし、本剪定する。[図6]

長所

- 切り戻し日が従来から行っていた、仮剪定日と近似しており、馴染みやすい。
- 1回のソフトピンチなので、伸長する新芽のばらつきも少なく比較的容易です。

短所

- 切り戻し(仮剪定)から本剪定までの日数が少なく、葉を全面的に落してしまっ株には、新芽の葉の展開が少なくなるので、光合成も小さいので株のダメージ回復効果は少し。

(6) 剪定例 6 (シュート枝の横倒し)

4、5 段まで伸びたシュート枝をそのまま地表と水平近くになるように横に倒す方法です。4、5 段目の中ほどをピンチし、そのまま枝を寝かせます。一気に水平近くまで曲げると、つるばらと違い、枝が硬いので段の継ぎ目やシュートの付け根から折れて、元も子もなくなってしまいますから、慎重に、徐々にゆっくり倒してください。農竹にビニタイで2ヶ所止めるなど、ゆっくりと曲げると失敗が少ない。

この方法ですと、シュート枝からステムが数本得られるのと、どのステムも直立でまっすぐなステムとなり、さらに有利です。芽吹きはつるばらのように無数に出てきますから、ステムの太さが最終的に花首から下 50cm の位置の直径が 5mm~9mm になるよう、ステムの数を制限します。

特に多灌水多肥タイプの手児奈には有効な方法です。

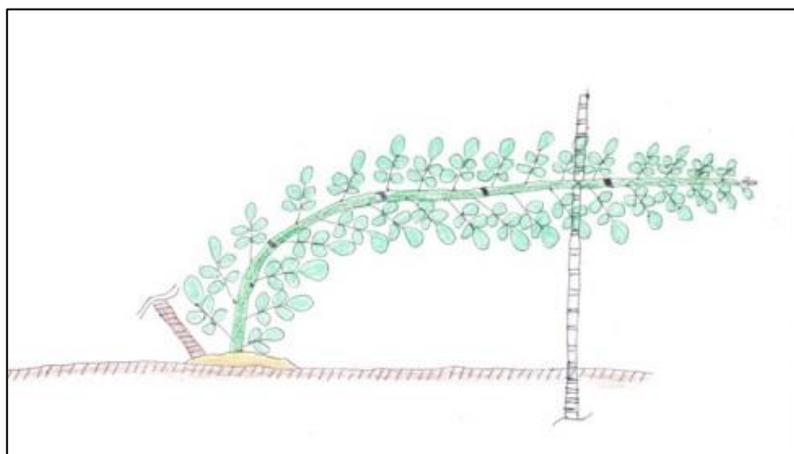


図 7

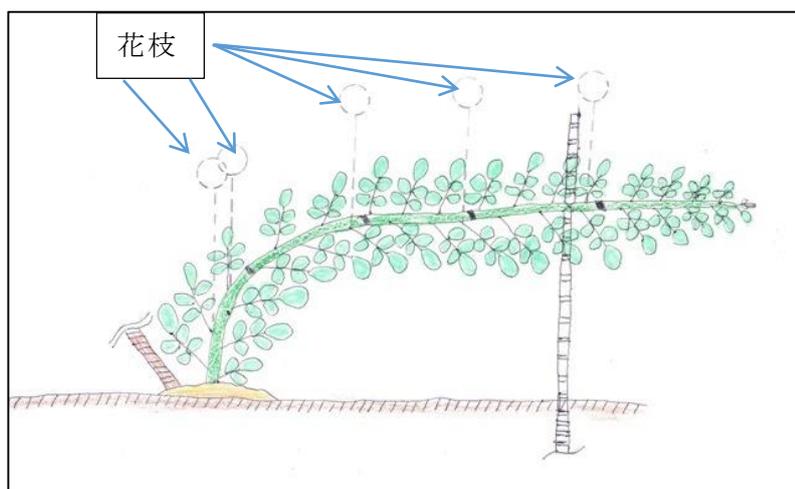


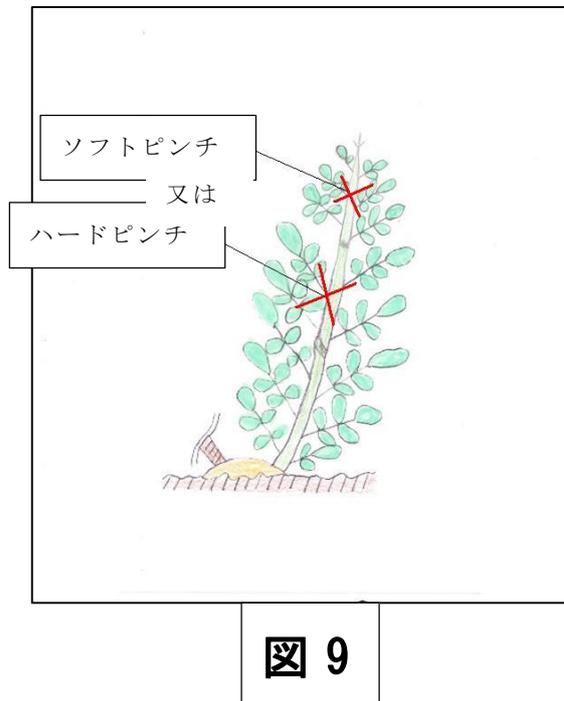
図 8

この方法は、開花日を合わせるタイミングが難しいので、剪定適期に一気に横に倒すのではなく、8月の10日過ぎに倒し、出てきたステムを剪定適期に1回ピンチする方法をとればタイミングを合わせやすい。

新芽は多く出現するので、当然芽掻きは必用です。手児奈の場合、1主幹1ステムが原則ですが、この方法ですと1段に1ステム伸ばし、良花が数本取れます。栽培スペースが広く必要となり、マニア向けです。

2. 7月上旬に伸びたシュートの剪定

(1) 剪定例7



7月上旬に出たシュートの場合、9月上旬の秋剪定時には、ちょうど3段目ぐらいが成長している頃なので、左図9のように3段目でピンチしたり、2段目で剪定することが出来るので、非常に扱いやすくなります。理想的なシュートです。

3. 途中(サイド)シュートの剪定

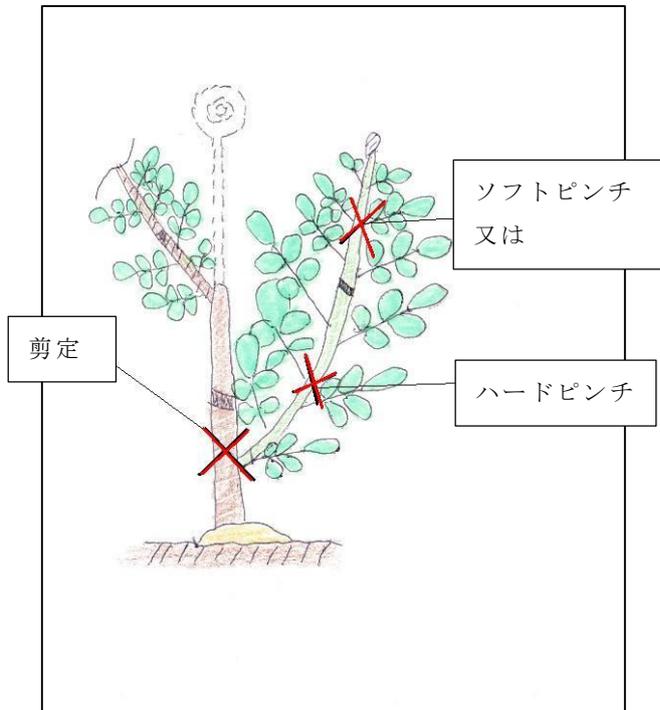


図 1 0

春花後、主幹枝の下の方から新たに伸びだす新芽は、時々、太い立派な新枝となります。これを途中シュートと言ひ、ベーサルシュートと同様に扱ひます。一段目をセオリーどおりにソフトピンチし二段目が伸びた辺りで、古い主幹の途中シュートの付根から先の幹を切除し、栄養を途中シュートに集中させます。春花後の特に細い枝や、花芽の付かないブラインド枝は速やかに切除し、株の整枝をします。こうすることによってばらの株はすっきりと風通しもよくなり、病虫害に強い、シュートの発生に良い株となります。

4. 比較的樹高の低いHTの剪定方法 剪定例8

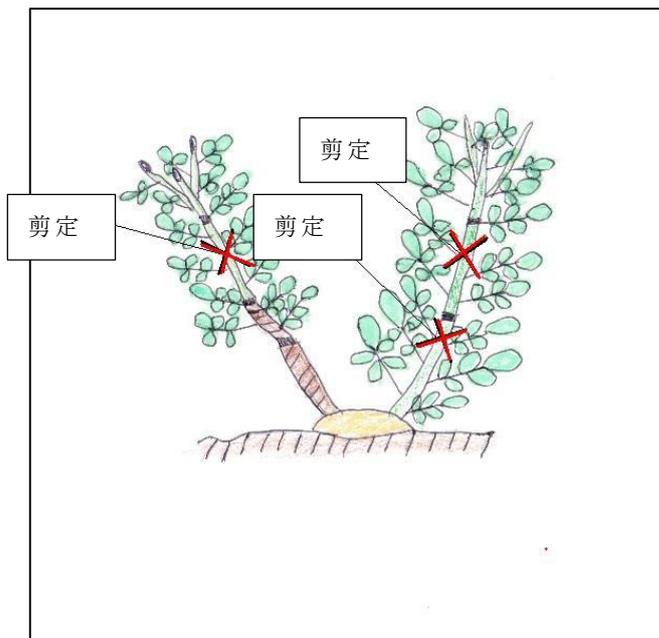


図 1 1

比較的樹高の低いHT品種では、シュートのピンチを繰り返すうちに3段目あたりからステムが短く、5枚葉が出ないで3枚葉又は、蕾ばかりつける品種があります。これはその品種特性で、全体の樹高が約1m以上高くない品種だからです。3段目を超えると自己の樹高の限界になり、それ以上伸びようとしなないからです。このような品種でステムを65cm以上得るためには、左図11のように、やや強剪定気味に2段目か場合によっては1段目まで切り戻す必要します。

3 段目以上で剪定しても長いステムは得られません。

このような品種はコンテスト花ではノービー・卑弥呼・ホット神崎・みつえ・依里花などがあり、すべての元親はコロラマです。コロラマ自体もその傾向があります。

元親はそうではありませんが「魅惑」もこの傾向が強い。

5. 先端が箒状になってしまった枝の剪定 剪定例 9

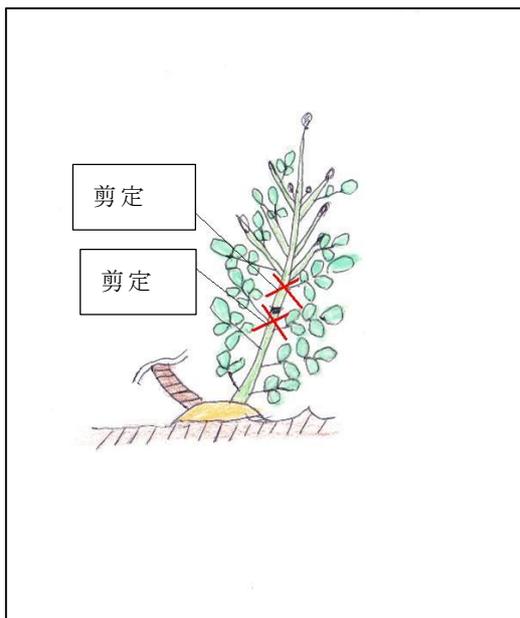


図 1 1

シュートのピンチを忘れ、先端がほうき状になってしまった場合、ほうき状の下、直近の 5 枚葉の位置で剪定する。ただし HT の場合、ほとんど良花は得られず、失敗作となります。

FL (フロリバンダ) の場合は上記と同じ剪定位置ですが、時にほうき状の下に 5 枚葉がない場合があります。直下の 5 枚葉の新芽のみを残します。房咲き系でもシュートを 1、2 回はピンチすると、後の剪定がしやすくなります。

春の花を咲かせた後の枝の剪定は 4. 剪定例 8 の図 10 を参考にしてください。古株のばらで新しい枝が出にくくなったばらは、やむなくこの位置で剪定しますが、品種によってはこのような枝でも良花が出る場合があります。

6. 消毒

秋ばら剪定とは頂芽優勢が除かれたことを言い、その後の約 2 週間後は新芽が芽吹いて、1~4 cm に達し花芽分化を開始します。この時期にばらに刺激を与えることは禁物で、特に消毒はこの時期中止します。

この時期に発生しやすい病害虫の薬剤は、先月に書いた通り、剪定前から剪定後 1 週間以内に済ませておきます。

本葉が、数枚展開し新芽が 10 cm を超えたら、春の最初の消毒と同じように新芽で葉が柔らかいので殺虫・殺菌剤・活性剤などは、希釈倍率を規定より薄目に調合し散布します。

活性剤や葉面散布肥料など各種特殊資材を混入して用いることがありますが、花芽分化の時期はもちろんです、初めて使用するような資材は全面散布を避け、最初に少量を別の品種で試してから使用する。

7. 灌水

剪定後の2週間後は消毒と同様に花芽分化期であるので、地植えの場合は灌水も中止した方が良い結果が得られます。鉢植えの場合は、まだ残暑の厳しい季節なので水切れは禁物ですが、通常よりは少な目にします。剪定前にたっぷり灌水することと、剪定後2週間が過ぎて新芽が10 cm以上に伸びたら、たっぷりと多目に灌水します。

コンテストHTでは、ステムの良く伸びる品種などで、葉と花のバランスや灌水によって栄養分を吸収して悪花になることを抑制するため、灌水を控え目にしたり、全く灌水しない品種があります。逆にステムの短い品種や、強肥料品種では灌水を多目にし、ステムを長く伸ばしたり、栄養分を多目に効かした方が良い花が咲く品種もあります。

コンテスト用HTでは灌水コントロールによる花の仕上げが重要です。

8. 施肥

追肥主義でも9月に地植えHTの施肥は必要ありません。その他のFL品種なども剪定前に追肥は済ませておきます。元肥主義の方は一切必要ありません。

鉢植えは、コンテストHTを除き、剪定の2週間前までに追肥は終わらせておきます。できなかった場合は剪定後、花芽分化後に成長ぐあいにより置き肥します。量は少なめを意識しながらコントロールします。

なお、
詳細はホームページ「EVERYDAY ROSE IN ROSE」を参考にしてください。

URL : <http://www.maroon.dti.ne.jp/rosediscus/>

「roseinrose」で検索

上記ホームページから ばら栽培ブログ「ばらバカ日誌」へ

「ばらバカ日誌」で検索